

氏名	正 富 千 絵
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1959号
学位授与の日付	平成11年3月31日
学位授与の要件	医学研究科社会医学系公衆衛生学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Urinary excretion of Type I collagen crosslinked N-telopeptides, bone mass and related lifestyle in middle-aged women (中年女性における尿中NTx, 骨量, およびそれに関わる ライフスタイルについての検討)
論文審査委員	教授 青山 英康 教授 清野 佳紀 教授 井上 一

学位論文内容の要旨

中年女性61名(34-59歳)を対象とし、I型コラーゲン・ペリジノリン架橋結合N末端テロペプチド～ヘリックス断片(NTx)に関与する閉経とライフスタイルについて検討した。骨指標として、腰椎骨密度(BMD)、踵骨超音波伝導速度(SOS)、および超音波減衰係数(BUA)を用い、骨代謝マーカーとして、NTx、オステオカルシン、骨型アルカリフォスファターゼを測定した。また、骨強度(Stiffness)はSOSとBUAから算出した。問診項目は、既往歴、骨粗鬆症の家族歴、月経歴、出産歴、飲酒・喫煙習慣、牛乳摂取量、高カルシウム食品の摂取頻度、運動歴、日常身体活動であった。閉経後群のNTxの平均値は、閉経前群に比べて有意に高値を示し、BMDとStiffnessは有意に低値を示した。NTxは閉経前より漸増傾向を示し、閉経後には著明な個人差を認めた。また、20~40歳時に運動をしていなかった群では、運動経験のある群よりNTxが有意に高値を示した。さらに、重回帰分析を行った結果は、年齢、Stiffness、過去の運動歴によって、NTx濃度の43.5%が説明された。閉経期における骨代謝回転は個人差が大きく、その要因の一つとして過去の運動習慣が関連する可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は人間ドック受診者中、研究対象としての協力の承認が得られた中年女性61名を対象として、骨代謝回転の変化を鋭敏に検知すると考えられているI型コラーゲン・ペリジノリン架橋結合N末端テロペプチド～ヘリックス断片(NTx)を測定し、既往歴や家族歴、月経歴、出産歴及び飲酒・喫煙習慣、食生活、運動歴などの生活習慣との関連を検討し、閉経後にNTxとともに骨密度、骨硬度が有意に低下することを明らかにした。しかし、これらの低下は個人差が大きく、その要因として年齢や骨強度とともに運動歴が強いかかわっていることを明らかにしたことは、骨粗鬆症対策の策定に際しての公衆衛生学的に重要な知見を得た価値ある業績と認めた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。